

高菜収穫機

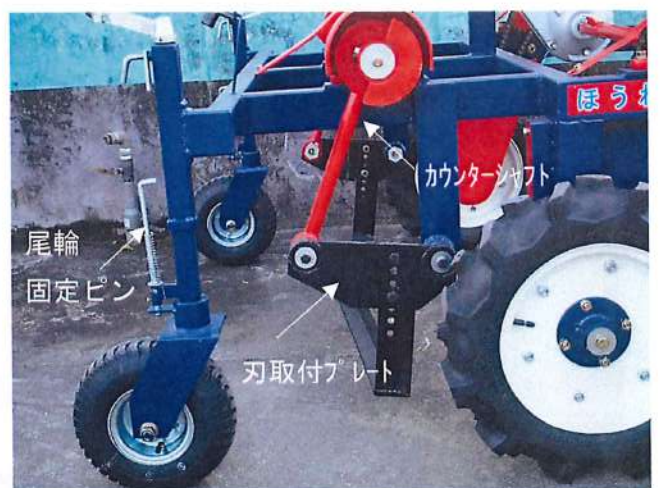
取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください

いつまでも大切に保管してください

◆各部の名称



- エンジンスイッチ エンジンの始動・停止に用います
- 主クラッチレバー エンジンからの動力の伝達（クラッチの入り・切り）
※主クラッチレバーの入り・切りはフィンガーレバーでも行うことが出来ます
- 変速レバー 前進1～5速と後進1～2速の変速を行うレバー
- 振動クラッチレバー（PTOレバー） 刃の振動の伝達（入り・切り）を行うレバー



- ハンドル旋回レバー ハンドルの位置を左右にずらすことができます
 - 操向クラッチレバー 旋回時に、レバーを握った方向にタイヤの舵力が抜けて、その方向へ機体を旋回させるレバー
 - 尾輪 掘取深さの微調整を行います 尾輪調整ハンドルを回すことで尾輪の高さを変えて掘取深さを微調整します
 - 根切刃 ほうれん草の根を切る刃
 - カウンターシャフト 刃への振動を伝達するシャフト
 - 刃取付プレート 刃を取り付けるプレート ボルト位置を変え刃の高さを調節する
-
- スターターハンドル エンジンの始動を行うリコイルスターターのハンドル
 - 燃料タンク レギュラーガソリンを使用 容量：2.8ℓ
 - 燃料コック 燃料タンクからエンジンへ燃料の供給停止を行います
 - キャブレター 気化器 燃料と空気の混合を行います
 - チョークレバー エンジンの始動時に使用 一時的に混合気を濃くします
 - プライマーポンプ エンジンの始動時に使用 キャブレターへの燃料供給を行います
 - エアクリーナー 湿式 エンジンへ取り込む空気の清掃を行います

◆運転のしかた

■エンジンの始動

- ① 主クラッチレバーが『切』になっていることを確認して下さい。
※ 安全の為、主クラッチレバーが『入』の状態では始動しないようになっています。
- ② エンジンスイッチを押しながら『運転』位置まで回します。
- ③ 燃料コックを開ける。
- ④ プライマーポンプを2～3回押して燃料をキャブレターへ供給してください。
※燃料タンクがエンジンより下の位置にある為、ポンプで吸い上げる必要があります
- ⑤ チョークレバーを引いて『閉』状態（混合気を濃くする）にします。
- ⑥ リコイルスターターを引く。
- ⑦ エンジンが始動したら、チョークレバーを戻して下さい。
- ⑧ 2～3分暖気運転をしてから作業を始めてください。

■エンジンの停止

- ① 主クラッチレバーを『切』にします。
- ② スロットルレバーを戻し『低』にします。
- ③ 変速レバーを『中立』にします。
- ④ エンジンスイッチを押すと左に回って『停止』位置に戻り、エンジンが停止します。
- ⑤ 燃料コックを閉めます。
※ コックを開いた状態で長期保管するとガソリンの劣化等により始動が困難な場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

■発進のしかた

- ① 主クラッチレバーが『切』の位置にあることを確認した後、変速レバーを必要な速度位置にします。
作業時 : 1～2速
移動時 : 3～5速
後進 : R1
圃場への進入時 : 1速
- ② 主クラッチレバーを『入』にして発進します。
フィンガーレバーを下に押すとハンドルを握ったまま主クラッチを入れることができます。
- ③ スロットルレバーを操作して速度を調整してください。



◆掘取作業のしかた

■圃場への出入りについて

- ① 尾輪と刃の位置を確認して下さい。
尾輪を縮めた状態では刃をこする場合があります。
- ② あぜ越えや坂道からの進入を行う場合は必ず1速でゆっくりと進入して下さい。
- ③ 坂を登って入る場合は前進、坂を下って入る場合は後進にて、進入を行って下さい。
※坂に対し斜めに進入すると転倒してケガをするおそれがありますので注意下さい。
※後進で坂を下る場合は、操向クラッチの操作が前身の場合と逆になるので注意して下さい。(操向クラッチを切った方のタイヤの舵力が抜ける為)
※坂道を下る際は、できるだけ操向クラッチを切らないようにしてください。



■掘取作業の手順

- ① 掘取を行う畝に対してまっすぐに進入し、うね溝にタイヤを合わせます。
- ② 畝の高さに合わせて刃の取付位置を変更してください。
刃の高さ(掘取深さ)の調整は、刃取付位置で大きく調整し、尾輪での深さ調整はあくまでも微調整にとどめてください。掘取の際の刃の角度は水平が理想であり、尾輪で調整し過ぎると刃の角度が変わってうまく根を切らない場合があります。
- ③ 刃の高さが決まったら、振動クラッチレバー(PTOレバー)を『入』に下ください。
※注意：決して走行しながら振動クラッチレバーを『入』にしないでください。
ミッションの破損につながりますので必ず守って下さい。



- ④ ハンドル旋回レバーを下に下げてハンドルを左右いずれかに動かして下さい。
オペレーターは畝溝を歩きますので、ハンドルを動かした方が操作がしやすいです。

- ⑤ 主クラッチレバーを『入』にすると、刃が振動しながら前進し作業が始まります。
- ⑥ 3～4m進んだところで一旦、主クラッチレバーを『切』にして作業を止めて下さい。機械を通した部分の株を拾い上げ、下刃で切った根の長さを確認していただき、尾輪で深さの微調整をして下さい。この深さ微調整作業を2～3回行い、最適な掘取深さで作業を再開して下さい。
※走行中でもハンドルを回して尾輪での掘取深さ調整はできます。
- ⑦ 駆動タイヤのすぐ後ろに掘取刃があるため、操向クラッチでは作業中の方向修正が思うようにできません。作業中の方向修正はハンドルに体重をかけて修正したほうがうまく方向修正できます。



走行中でも
ハンドルを回して
尾輪での掘取深さの
調整ができます

※オペレーターは畝溝を歩きますので、
ハンドルを左右どちらかに動かした方が操作はしやすくなります。

- ⑧ 掘り終わりに近づいたら、1速に戻して速度を落として下さい。
- ⑨ 主クラッチレバーを『切』にしてアクセルレバーを戻しアイドル状態にします。
- ⑩ 主変速レバーを『R』に切り替え、アクセルはスローのまま振動させながら、ハンドルを持ち上げ刃を上昇させて畝から抜き上げます。(振動をかけたままバックすることで刃が抜け出てきます。この時にハンドルを少し持ち上げてやるのがポイントです) ※必ずスローで作業を行って下さい。
- ⑪ 掘取刃が完全に浮上したら主クラッチレバーを『切』、振動(P T O)レバーを『切』状態にする。
- ⑫ 枕地旋回は必ず1速で行って下さい。



■トラックへの積み降ろしについて

- 本機は軽トラックへの積み込が可能です。荷台の横側からの積み込になります。
- 積み降ろし及び移動時は必ず掘取刃を格納状態にし、振動クラッチを切って下さい。
- 積み込み・積み降ろしは、平坦で交通の邪魔にならない安全な場所で行なって下さい。
- アユミ板はすべり止めのついた、機体重量に耐えるもの（耐荷重 0.5 t 以上推奨）で、トラックの荷台の高さ [1] に対しアユミ板の長さ [4 以上] のものを使用し、確実に固定して下さい。



- 足元に注意し、車速は最低速で、上りは [前進] 下りは [後進] で行き、途中で主クラッチを切ったり変速操作をしないで下さい。落下・転倒のおそれがあります。
- 積み込の際は、途中で絶対に操向クラッチレバーを『切』にしないで下さい。操向クラッチを切った方のタイヤの舵力が抜けて斜めに落下する危険があります。
- 必ず荷台に天井のない車を使用してください。
- 尾輪をいっぱいに縮めた状態での積み降ろしは、格納した刃がアユミ板に当たる可能性があり危険です。ある程度尾輪を伸ばした状態で積み降ろしを行なって下さい。



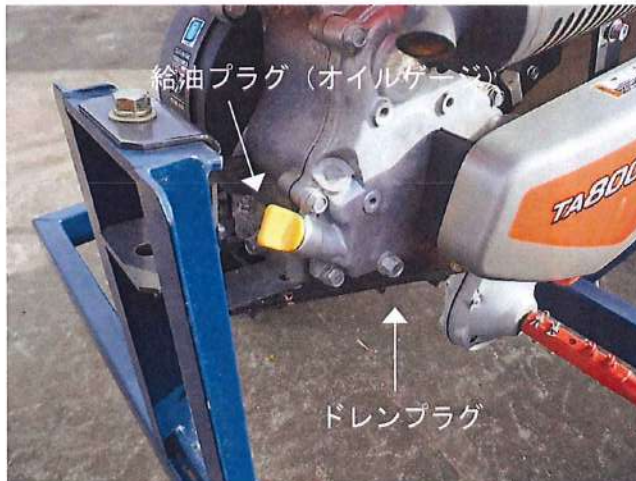
◆機械のメンテナンスについて

■ エンジンオイルの交換

定期的エンジンオイルの交換をして下さい。

エンジンを水平にするため、尾輪を穴が2つ完全に見える状態にセットして下さい。

ドレンプラグを外し排油します。完全に排出したら再びドレンプラグを取付け、オイルゲージを用いて規定量までオイルを入れます。



給油プラグを外し、給油口からオイルがあふれる位まで給油して下さい。

エンジンオイル量 0.6ℓ

粗悪なオイルの使用はエンジンの寿命を急激に縮めますので、ガソリンエンジン用のAPI分類SE級以上のオイルを使用下さい。

クボタ純オイルスーパーG 10W-30のご使用をお奨めします。

排油処理は産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理して下さい。

■ 燃料の取扱いについて

使用燃料：自動車用レギュラーガソリン 燃料タンク容量：2.8ℓ

<重要!!> 燃料は劣化します!!

ガソリンは1ヶ月以上放置すると『気化』『酸化』してエンジンの始動不良や運転不調をひきおこします。

1ヶ月以上使用しないときは、燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜き取り、キャブレター内は排出ツマミを引いて、フィルタポットは外して全部抜き取って下さい。



<注意!!>

燃料を抜取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラが十分冷えてから行なって下さい。

火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないで下さい。

■ エアクリーナーの点検

定期的エアクリーナーエレメントの清掃とオイル交換をして下さい。

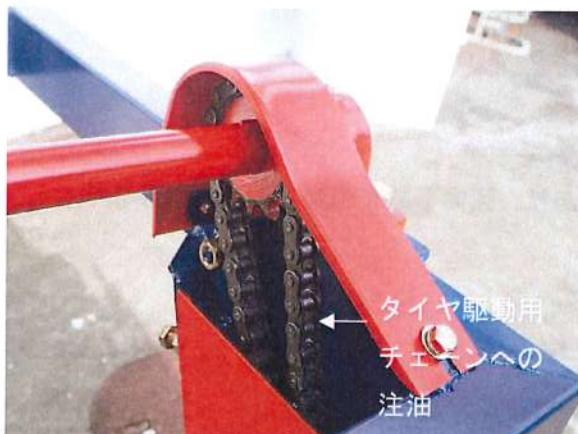
<重要!!>エアクリーナーの清掃を怠るとエンジン内部へのゴミやホコリの侵入につながり、エンジンの出力低下やシリンダの異常磨耗をひきおこします。

エレメントは時々白灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振り切ってから取付けて下さい。オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量(OIL LEVELまで)入れて下さい。



■ グリスアップと注油

定期的各部へのグリスアップと注油をして下さい



■ 掘取刃のメンテナンス

■ シーズンインの際には刃を研磨することをお奨めします。



本体から掘取刃を取り外し、万力などで固定しディスクグラインダで研磨して下さい。
下刃だけでなく横刃も研磨して下さい。

■ 駆動タイヤのメンテナンス

定期的にタイヤの空気圧の測定と充填をして下さい。

使用時の空気圧は、1.6kgf/cm 以下で使用してください



<重要!!>

空気圧が低下したまま使用すると、
タイヤ内部でタイヤチューブが
ずれてパンク（チューブ破損）する
おそれがあります。
使用前の点検を怠らないようにして下さい。

<重要!!>

空気圧の入れ過ぎは、タイヤ破裂の恐れがあり、死傷事故を引起す原因になります。
規定圧力を必ず守って下さい。

◆ 機械のトラブルについて

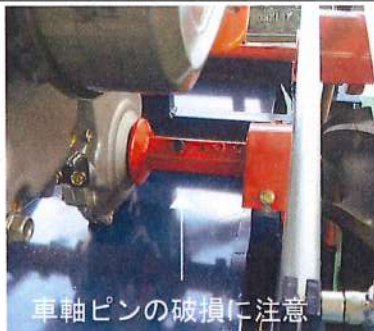
■ エンジンが始動しないとき

原因	処置
主クラッチレバーが『入』になっている ※セーフティスイッチが作動している	確認後、『切』にして 始動する
燃料がキャブレターに供給 できていない ※燃料タンクがエンジンより 下に位置するため燃料を キャブレターに強制的に 送る必要がある	燃料タンクに満タンまで ガソリンを給油して プライマーポンプを 数回押して始動して下さい
燃料が劣化している	キャブレターの分解掃除 農機店にご相談下さい





■ 機械が走行しないとき

原因	処置
振動の影響で、主クラッチレバーが『切』になっている	確認後、『入』にする
振動の影響で、変速レバーが抜けてニュートラル状態になっている。	確認後、『入』にする
車軸ピンが折れている 走行トラブルの 主な原因は車軸ピン折れが ほとんどです。	車軸ピンを交換する 常時部品在庫アリ 市販のアタマツキピンでも 代用可能
変速レバーが入らない 振動で変速レバーの奥の アームが乱れている	アーム(シュハソク)の乱れを調整 する 修理に関しては農機店に ご相談下さい



<p>駆動チェーンが切れている</p> <p>刃が石に当たるなどの衝撃でチェーンの接ぎ手が破損することが稀に発生しています</p>		<p>チェーン接ぎ手の交換</p> <p>交換に際しては農機店にご相談下さい</p> <p>常時部品在庫アリ</p>
---	--	--

■ 掘取刃が振動しないとき

原因	処置	
<p>刃取付ボルトが折れている</p>	<p>ボルトの交換</p>	
<p>刃が折れている</p>	<p>刃の交換または溶接</p>	
<p>振動チェーンが切れている</p> <p>チェーンの継手が破損することが稀に発生しています</p>		<p>チェーン継ぎ手の交換</p> <p>交換に際しては農機店にご相談下さい。</p> <p>常時部品在庫アリ</p>
<p>振動クラッチレバーが硬着して動かない</p> <p>※シーズンインに稀に発生する事例です</p>		<p>レバー根元に注油し軽くハンマーで叩きながら動かして下さい。</p> <p>シーズンオフには注油して格納して下さい。</p>



各部寸法

名称	高菜収穫機
型式	KLH1400
全長 ①	1,400 mm
全幅 ②	1,650 mm
全高 ③	1,230 mm
フレーム下高さ ④	600 mm
タイヤ中心間距離 ⑤	1,550 mm
掘取刃幅 ⑥	1,400 mm

作業及び走行部諸元

駆動車輪サイズ	4.00-12
変速段数	前進 5 速、後進 3 速 (作業時 1~2 速)
作業速度 (前進 1 速時)	10m / min

推奨畝体系

天板幅 : 1,000~1,100mm

畝裾幅 : 1,200~1,300mm

アッパーロータリー+成形機 (ササオカ大地くん推奨) を使用して作った畝に対応している



◆お問い合わせ

製品についてのお問い合わせ・ご質問などありましたら下記までご連絡下さい。

製品の修理のことなども遠慮なくご相談下さい

たなか ひさのり
代表：田中 久敬

携帯：090-1197-3328



〒839-1203

久留米市田主丸町秋成 580-1

TEL0943-72-2148

<http://www.horitoriki.jp>